

市長の強いリーダーシップの基市民の豊かな生活を自治体が主体的に進めることにより、市民の安心、幸福への貢献度高い。

(日本空港ビルデング㈱取締役副社長執行役員)



## 師の恩

蟹澤 聰史

小中高と学んだ故郷を離れて67年も経った。今になって思い出されるのは、伊那の風景とともに先生方から学んだこと。国民学校三年までは「軍事教育」一辺倒だったが、8月15日を過ぎ、学校へ行くと、それまでとはがらりと変わった雰囲気になった。戦争に負けたことをどう思うかとの綴り方に「負けて悔しい。大きくなったらこの仇を取る」と書いたところ、そこだけ朱墨で消されて返ってきた。小さい頭は混乱し、どうしてだろうかと思悩んだ。朝から教科書の墨塗りが始まったのもこの頃だった。しかし、次第にこの戦争がたいへん無謀だったことが分かってきた。

先生方も価値観の変わり方にどう対処したらいいのか、たいへんだっただろうと今になって思う。『子供の科学』の古雑誌をご自宅から持ってきて子供たちに貸して下さった先生、自由研究と称して、自分たちの興味を持ったことを何でもさせてくれた先生、ある朝、学校に行くと突然いなくなってしまった先生、後でレッド・パージで失職されたとのことなど、いろいろあった。

中学に入ると、もう中学生なのだからと、私語を禁止され、日常生活を通して「三平方の定理」を教え、黒板いっぱいこれが「ピタゴラスの定理」の証明だと見事に教えて下さった先生、理科室のいろんな道具や薬品を自由に使わせて下さって、フェノルフタレインで魔法のように水の色を変えてみせた先生、杉田玄白『蘭学事始』や「寅彦の随筆」の面白さを教えて下さった先生。

高校に入り、八キロの道を自転車を通ったこと、

クラス担任は国語の先生で、ソ連抑留の苦しさを味わってこられた。教科書だけではなく、吉川幸次郎・三好達治『新唐詩選』や齊藤茂吉『万葉秀歌』などの面白さを教えて下さった。クラス対抗の駅伝は盛り上がった。今になっていえる話だが、三年生のときは禁断の酒を持ち込んで先生に謹呈し、何とお零れにも預かった。そんな雰囲気がとても有難かったと今では思う。

どの先生方からも「好奇心と想像力」の大切さを教わった。

(東北大学名誉教授)

## 「いま、伊那市出身アーティストがアツイ！」

上岡実弥子

……らしいですね。

わたくし、まったく存じませんでした。

きっかけは幼なじみ:チハルさんからのLINE。

チ「そういえば King Gnu の井口くん……」

私「ごめん誰だっけ？」

チ「あら? King Gnu といえば伊那出身のグループよ」

私「し、知らなかった」

チ「聴いてみて〜。伊那では King Gnu チョー有名人よ」

<原文ママ、一部抜粋>

昔からチハルさんは流行に敏感⇔私は鈍感。『三つ子の魂百まで』とはいうものの伊那出身者としてウカツであった!

すぐ YouTube で聴くと……素敵。しかも聴いたことがある。かなりメジャーなグループだったのでですね。

調べると、ツインボーカルお2人とも伊那市ご出身とか。

「今ごろ何言ってるの」「モグリ」と叱られそうですがお許しください。今後、コトあるごとに自慢します(笑)。

本稿タイトル「いま、伊那市出身アーティストがアツイ!」は、以前、伊那市役所に掲示された